

## 書塾の仲間たち

第 242 回

### わしん 和心書道教室（東京都国分寺市）



#### ●書塾からひとこと

和心書道教室は、近所の満福寺（まふくじ）のご住職の勧めで開き、十九年になります。

お稽古は自宅と民間学童保育のウイズダムアカデミー国分寺校で行っています。対象は小学生から大人まで、幅広く、上達すること、楽しく長く続けることを目標に教えています。その上で月刊「書写書道」誌は的確な手本と丁寧な解説で大変役立ち感謝しております。

子どもたちは、初めて筆を持ち文字を書きとき、とても生き生きした字を書きます。ワクワクする気持ちを忘れず、「書道の基本を根気よく学ぶ」ことを大切に、昇級を目指して毎月の課題に熱心に取り組んでいます。お正月には生徒一人一人が好きな文字を選んで色紙に書いており、それぞれの作品に個性が表れて、大変味わい深い良いものになっていました。

また、大人の方も毎月の課題の毛筆と硬筆の練習に熱心に励んでいます。時には、月刊「書写書道」誌の先生方の書に対する姿勢のことや書に関する知識を話題にお茶会もしています。

私は、現在も師から臨書や展覧会作品の指導を受けています。書という芸術は、書写から始まりどこまでも奥深いものです。尊敬する書家の手島右卿先生が「何の怖れることも歪めることもなしにそつといのちを紙の上に載せることはできないものか」との言葉を残されています。

上達が遅くても学ぶことを続けば、いつか自分らしい感動する作品が書けることを信じています。これからも皆さんと一緒に書に向かい歩んでいきたいと思います。

和心書道教室

亀井

かずみ

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

# 小五 佐藤 映麻



送る相手のことを考えながらはがきを書いています

東京都三鷹市立高山小学校五年 佐藤 映麻

私は、小学三年生のころに書道を習い始めました。書道を習い始めた理由は、学校で書いていた字がきたなく、私も直したいと思つたからです。初めは、字を書いて形が変になってしまった時、消しゴムを使ってはいけないという決まりがあるなど、苦戦することもありました。でも、書道を続けていく内に、字をきれいに書く楽しさがだんだん分かってきました。また、きれいに書けなくても、先生ができるいよいよポイントをやさしく教えてくれるので、書道が大好きになりました。

そして、友だちが月刊「書写書道」の写真版にのると、私もうれしくて、自分も写真版にのせてもらえるように、がんばろうと思います。

私の教室では、毎年カレンダー付き色紙に字や絵を書いていて、そのできあがったカレンダーを見ると、次のokeいこの日がワクワクしてとても楽しみになってきます。

ほかにも、すみをすつたり、はがきを書いたりします。すみをする時は、どんどんすみ色がでて楽しいです。はがきを書く時には、送る相手のことを考えながら書けるので、とても楽しく書道を続けられています。これからも一字一字ていねいに気をつけて書き、もっと書道を楽しんで続けていきたいと思います。

## 私と書写書道 第242回

お手本をよく見て一文字一文字ていねいに書こうと思います

江東区立第五砂町小学校五年 松浦 えみ

学年	小三、小四(小五)	現段級
級		
氏名	松浦 えみ	



私が書道教室に通い始めたのは小学三年生の夏ごろからです。習い始めたきっかけは、友達に書道教室の体験にさそわれて、その時に通っている生徒のみなさんの字がとてもきれいだったので、私も字がきれいに書けるようになりたいと思ったからです。

習い始めたころは字のくせが強く、なかなか上手に書けずに何度も何度も書き直して、いやになりそうな時もありましたが、先生がていねいに教えてくださったので、少しずつ字のくせがとれてきて上手に書けるようになってきました。先生に「字がきれいになってきたね」とほめてもらつた時はとてもうれしかったです。

毛筆のokeいこは筆の持ち方がえんぴつとはちがい、はねやはらいがむずかしいですが、先生に教えてもらいながら少しずつ上手に書けるように練習しています。お手本をよく見て一文字一文字ていねいに書いて、上手に書けたときはとてもうれしい気持ちになりました。

今私の目標は月刊「書写書道」の優秀作品に写真がのことと、学校の書初めて金賞を取ることです。

先生に注意されたところに気をつけてお手本をよく見て、一文字一文字ていねいに書くように練習したいと思います。

これからもこう筆も毛筆も長く続けて、もっと上手に書けるようにがんばります。